

形成外科専門研修プログラム

診療科の特色



信州大学医学部
形成再建外科学講座
Department of Plastic and Reconstructive Surgery
Shinshu University School of Medicine

信州大学医学部形成再建外科学教室は、昭和53年に大学附属病院の診療科として耳鼻咽喉科より独立し、平成2年に講座に昇格しました。診療科開設当初は顔面領域の治療が中心でしたが、その後の国内外施設での研修および独自の研究開発により、形成外科全般にわたりバランスよく診療することが可能となり、現在に至っています。診療に関しては、大学病院では眼瞼形成外科、口唇口蓋裂、血管腫血管奇形、虚血肢の下肢救済治療、乳房再建、頭頸部再建を中心に治療を行っています。関連病因では疾患の偏りなく、形成外科疾患全般に対応しています。

1. 頭頸部、乳腺、皮膚・軟部悪性腫瘍の再建におけるチーム医療

悪性腫瘍を治療する複数の診療科（耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、脳神経外科、乳腺内分泌外科、婦人科、皮膚科、整形外科）とのチーム医療において、当科は再建外科としての重要な役割を担ってきました。1978年に耳鼻咽喉科内の再建班から独立した当科の再建外科専門チームとしての歴史は長く、身体のあらゆる部位・臓器の再建治療を担当しています。

2. 多施設間連携口唇口蓋裂センター

口唇口蓋裂診療は当科発足当時から行ってきましたが、外科医、矯正歯科医、言語聴覚士他の多くの専門家によるチーム医療を広い長野県で効率的に展開するために、2013年に、信州大学、松本歯科大学と長野県立こども病院を軸として多施設間連携口唇口蓋裂センターを立ち上げ、長野県全域と山梨県の当該疾患の診療を行っています。約700名（うち新患約50名）の口唇口蓋裂患者の長期フォローアップを行っています。

3. 眼瞼眼窩関連疾患に関する専門治療

眼瞼眼窩のがんの再建術、眼瞼眼窩の外傷、眼瞼の先天性下垂症だけでなく、頭痛、肩こり、疲労など多くの不定愁訴を起こす腱膜性眼瞼下垂症、眼瞼痙攣そして眼瞼内反症の治療にも、新しい治療方法を開発し、力を入れております。患者様は全国各地から受診されます。

4. 血管腫・血管奇形に対する集学的診療

難治疾患である血管腫・血管奇形（乳児血管腫、赤あざ（毛細血管奇形）、動静脈奇形、静脈奇形、リンパ管奇形、混合型奇形など）に対して、放射線科、整形外科、皮膚科他とのチーム医療を2007年より展開しております。患者様が関連各科を紹介により巡る形式ではなく、患者様のところに専門家が集まる形式で診療を行い、その場で治療方針が話し合われる真の集学的診療が行われております。

5. 虚血下肢保存救済診療チーム

循環器内科、血管外科、糖尿病内科および腎臓内科他の専門家チームにより、2009年から下肢救済治療（重症虚血肢、糖尿病性壊疽など）を行っています。毎週合同カンファレンスが開催され、長野県および周辺地域から患者様が集まっています。脂肪組織由来幹細胞移植による先進的な医療も行われています。大学病院にて多種専門家による集学的な治療が行われた後に、患者様方が地元の地方医療施設でのフォローアップが行われるように、施設間連携にも力を入れております。

6. 高度救命救急センターとの集学的治療

高度救命救急センターを有する信州大学病院では、切断指（肢）や顔面多発外傷、重度熱傷、重症軟部組織感染症など高度で専門的な治療が求められる症例を数多く受け入れています。当科に関連した重症症例は当院高度救命救急センターにほぼ常時入院しているため、毎日回診業務を行いながら同センターと密な連携をとって治療を行っています。

7. 漏斗胸を中心とした胸郭変形の治療

長野県立こども病院を中心に、漏斗胸を中心とした胸郭変形の治療を行っています。ナスプレートと内視鏡を用いた低侵襲で安全な手術治療を実践しており、患者様は全国から受診されております。

8. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合

顕微鏡を用いて径0.5mmほどのリンパ管と静脈の吻合を行うリンパ管静脈吻合術は、スーパーマイクロサージェリー技術を用いて行われます。乳癌や婦人科疾患の手術後や外傷などで発症する上肢や下肢のリンパ浮腫に対して手術が行われ、院内だけでなく他院からの紹介も多く、良好な成果を上げています。その診断や評価、マッサージ療法やストッキング着用における指導など保存的治療などに関して、多種専門家と連携しながらその診療を行っています。

専門研修の魅力

・信州大学形成外科専門研修プログラムの魅力は、幅広い診療分野から豊富な手術経験が積める点です。信州大学は広い長野県に唯一の医学部であるため、長野県内の症例はおのずと信州大学及びその連携施設に集中します。地域のニーズに応え、私たちの診療も分野の偏りなく（もちろん得意分野の症例数は他県からも集まり増えています）行っています。専門研修を受ける専攻医の数も毎学年1-4名と少数精鋭のため、術者として手術の執刀をする機会も多くあります。

・私たちは1978年から診療科を創設しており、国立大学としては古くからの伝統のある教室です。これまでに蓄積した症例のノウハウは教室の宝です。

研修カリキュラム

信州大学専門研修プログラム責任者
形成再建外科学教授 杠(ゆずりは) 俊介

研修期間

形成外科専門医は、初期臨床研修の2年間と専門研修(後期研修)の4年間の合計6年間の研修で育成されます。



プログラム構成病院の概要(研修中に派遣される病院の指導体制など)

(専門研修基幹施設)

信州大学形成外科が専門研修基幹施設となります。(研修プログラム責任者:1名, 指導医:2名, 症例数:約730例)

(専門研修連携施設)

信州大学形成外科専門研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。

- ・長野赤十字病院形成外科(指導医:2名, 症例数:約770例)過疎地域医療施設を兼ねる
- ・長野市民病院形成外科(指導医:2名, 症例数:約560例)過疎地域医療施設を兼ねる
- ・長野松代総合病院形成外科(指導医:1名, 症例数:約450例)過疎地域医療施設を兼ねる
- ・長野県立こども病院形成外科(指導医:1名, 症例数:約890例)
- ・相澤病院形成外科(指導医:1名, 症例数:約640例)過疎地域医療施設を兼ねる
- ・諏訪赤十字病院形成外科(指導医:2名, 症例数:約980例)過疎地域医療施設を兼ねる
- ・伊那中央病院形成外科(指導医:2名, 症例数:約1920例)過疎地域医療施設を兼ねる
- ・飯田市立病院形成外科(指導医:2名, 症例数:約910例)過疎地域医療施設兼ねる
- ・富士見高原病院形成外科(指導医:1名, 症例数:約360例)過疎地域医療施設を兼ねる
- ・松波総合病院形成外科(指導医:1名, 症例数:約1190例)過疎地域医療施設を兼ねる

(連携候補施設)過疎地域医療施設となる

- ・昭和伊南総合病院形成外科
- ・南長野医療センター篠ノ井総合病院形成外科
- ・信州上田医療センター形成外科
- ・市立甲府病院形成外科

形成外科領域専門研修カリキュラムでは、到達目標の達成時期や症例数を1年次から4年次まで項目別で設定しています。しかし実際には、各施設の症例数や人事異動などでその時期が前後すると予測されます。そのため、設定した年次はあくまで目安であり、4年次までにすべての到達目標を達成することを最終目標とした上で、基幹施設と連携施設で連携しながら専門研修コースを設定していく必要があります。

1)各年次の目標

(専門研修1年目)

医療面接・記録:病歴聴取を正しく行い、診断名の想定・鑑別診断を述べることができる。

検査:診断を確定させるための検査を行うことができる。

治療:局所麻酔方法、外用療法、病変部の固定法、理学療法の処方を行うことができる。基本的な外傷治療、創傷治療を習得する。

偶発症:考えられる偶発症の想定、生じた偶発症に対する緊急的処置を行うことができる。

(専門研修2年目)

専門研修1年目研修事項を確実にこなすことを前提に、形成外科の手術を中心とした基本的技能を身につけていく。研修期間中に 1)外傷, 2)先天異常, 3)腫瘍, 4)瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド, 5)難治性潰瘍, 6)炎症・変性疾患, 7)その他 について基本的な手術手技を習得する。

(専門研修3年目)

マイクロサージャリー、頭蓋顎顔面外科などより高度な技術を要する手術手技を習得する。また、学会発表・論文作成を行うための基本的知識を身につける。

(専門研修4年目以降)

3年目までの研修事項をより深く理解し、自分自身が主体となって治療を進めていけるようにする。さらに、再建外科医として他科医師と協力の上、治療する能力を身につける。また、言語、音声、運動能力などのリハビリテーションを他の医療従事者と協力の上、指示、実施する能力を習得する。

2)4年間での手術経験数および執刀数

基幹施設と連携施設を合わせた研修施設群全体について、専攻医1名あたり4年間で最低300例(内執刀数80例)の経験(執刀)症例数を必要とします。

3)専門研修ローテーション

信州大学および11の連携施設のいずれかで、すべての形成外科専門医カリキュラムを達成することを目指します。但し、それぞれの施設には取り扱う疾患の分野にばらつきがあるため、不足分を補うように病院間での異動を行っていきます。

(ローテーションの一例)

専門研修1年目:信州大学形成外科(1年)

↓

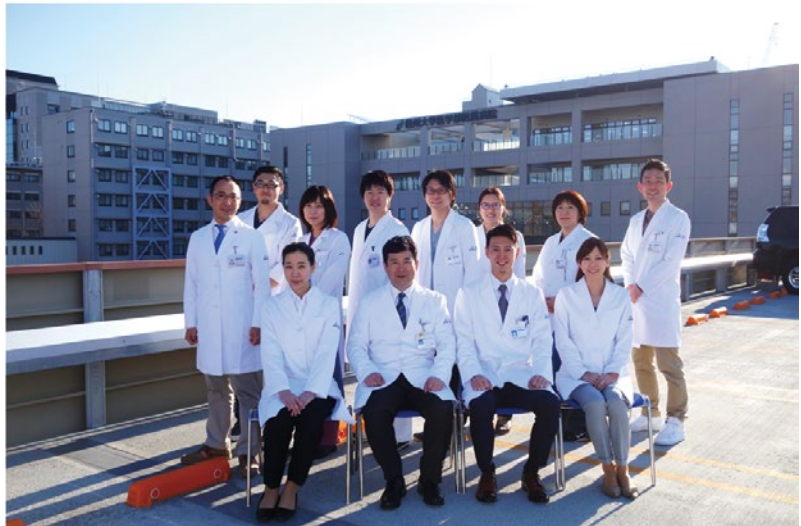
専門研修2年目:長野市民病院形成外科(1年)

↓

専門研修3年目:長野県立こども病院形成外科(6カ月)

↓

専門研修4年目: 信州大学形成外科(6か月)、伊那中央病院病院(6か月)



サブスペシャリティー・学位取得の道筋

日本専門医機構形成外科専門医を取得した医師は、形成外科専攻医としての研修期間以後に Subspecialty領域の専門医の2つ以上を取得して指導医になることが望めます。

- 日本形成外科学会認定の皮膚腫瘍外科特定分野指導医
- 日本創傷外科学会認定の創傷外科専門医
- 日本頭蓋顎顔面外科学会認定の頭蓋顎顔面外科専門医
- 日本熱傷学会認定の熱傷専門医
- 日本手外科学会認定の手外科専門医
- 日本美容外科学会(JSAPS)認定の美容外科専門医

大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

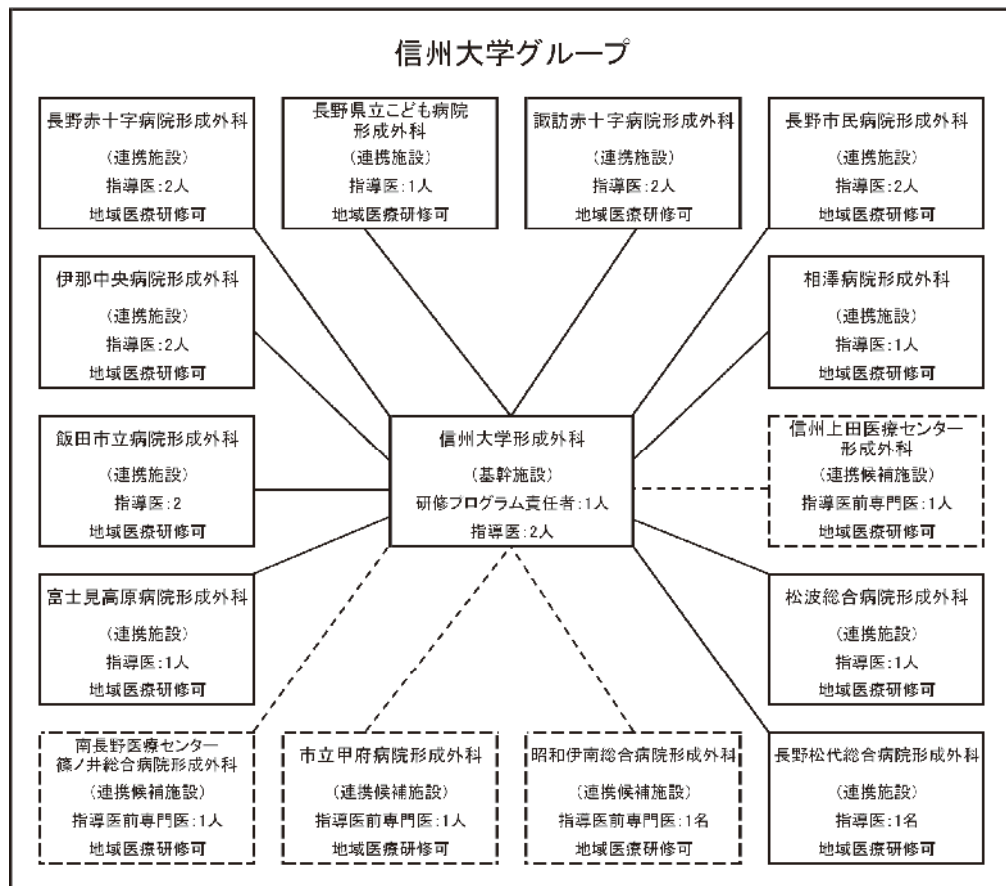
口唇口蓋裂、血管腫血管奇形、マイクロサージャリー、リンパ浮腫、重症下肢虚血、眼瞼下垂などのテーマに取り組んでいます。

国内留学・海外留学

希望により留学が可能です。

将来の就職先など

信州大学病院 あるいは 県内外の関連病院に勤務します。



連絡先

信州大学医学部 形成再建外科学教室 統括医長:永井 史緒

■住所:〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話:0263-37-2833

■E-mail : keisei@shinshu-u.ac.jp

■U R L: <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-keisei/>

■専門研修プログラムの詳細は、日本形成外科学会ホームページ→専攻医の登録はこちら→形成外科専攻医研修プログラム一覧→信州大学医学部附属病院